



高専生による離島における小学生を対象とした防災・環境教育プログラムの構築

学生の手で役立つ防災・環境教育を

急遽簡易マスク作り講座を実施

瀬戸内海に浮かぶ弓削島は、本州や四国と橋でつながっていない離島だ。同島の弓削商船高等専門学校では、離島が抱える課題を工学的視点から解決する「離島工学」を提唱しており、2020年度には科学実験同好会を中心とした学生たちが上島町立弓削小学校で離島における防災や環境に関する出前授業を行った。

新型コロナの影響で当初の予定どおりにはいかなかったものの、弓削小で授業が再開された5月には、急遽、工業用紙タオルなどを用いた簡易マスク作り講座を実施する柔軟性を見せた。

発案者である3年生の岩部悠紀さんは「全国的に深刻なマスク不足だったので、離島ではもっとマスクが手に入りやすいだろうと思って考えつきました」と話す。



学生たちは、自身の体験や思いを活動に生かしている



弓削小で行われた大気観測実験の様子

自主的な課題解決型の姿勢

こうした課題解決型の方針は活動のバックボーンとなっている。例えば、簡易ポンプ製作の出前授業は、「平成30年7月豪雨」で弓削島が断水被害を受けた経験から発案された。また、広島市の実家で7月豪雨に見舞われ、一時避難した経験をもつ2年生の上野智貴さんは防災士の資格を取得。同じ瀬戸内海の伯方島に実家がある2年生の岩本大輝さんは島嶼における南海トラフ地震の被害を研究するなど、個々の学生にも自主的な課題解決型の姿勢が浸透している。

担当の伊藤武志教授も「活動は学生の自主的な動きで成り立っています」と話す。また、「学生に頼りきってしまうこともあって……そういえばCM作りはどうなってる？」と聞くと、上野さんが「もうすぐ完成です」と答えた。環境教育の出前授業の成果をCMにまとめており、4月から町営ケーブルテレビで放映される。ここでも学生の自主性が発揮されている。

(プログラム助成)



）アクリル模型を用いた手押しポンプの実演



小型ロケットストーブでの燃焼実験の出前授業

●実施担当

伊藤武志 教授

●活動のモットー

学生がやりたいことをできる“活動の場”の提供に注力している。また、地域の活性化は常に考えていて、そのうえで活動を楽しんでくれればと思う。



学校概要



商船・電子機械工学・情報工学の3学科を設置。高度化・多様化する科学技術に柔軟に対応できる人材の育成などを掲げる伝統校。

設立: 1901年

生徒数: 647人

所在地: 愛媛県越智郡上島町弓削
下弓削1000番地

この活動は、中谷医工計測技術振興財団の「科学教育振興助成」により行われています。



公益財団法人

中谷医工計測技術振興財団 〒141-0032 東京都品川区大崎1丁目2番2号 アートヴィレッジ大崎 セントラルタワー8階

シスメックス株式会社創立者の故・中谷太郎氏が私財を投じて設立。医工計測技術分野の発展を願い、「中谷賞」をはじめ各種研究助成、若手研究者支援や国際交流事業を展開。さらに、すそ野拡大のため、科学教育振興活動などに対し、幅広い助成事業を行っています。

中谷財団

検索